

第8回 清和台地区学校のあり方を検討する懇話会 議事録

令和8年4月28日 午前10時～

【審議会での意見や今後の清和台地区の方向性について】

<問>説明させていただいた清和台の教育環境をC案で進めていくことについてのご意見やご質問、周りの方々の反応などがあれば、お聞かせいただければと思います。

- ・朝の旗振りなどで地域の方と交流があるが、小学校統合について話をすると「いいね」という反応が多く、否定的な意見はない。しかし、地域の方が共通して気にしているのは「小学校の跡地はどうなるのか」ということ。

《教育委員会》

⇒跡地については具体的に決定していない。清和台地区の皆さまの意見を聞いていく必要があると認識している。実際に跡地となるまでには長い時間を要するので、今すぐに跡地活用の計画を発表しても、数年で状況が変わってしまう可能性が高いと考える。今後、時間をかけて話し合いながら決定していく。

⇒懇話会と別に、地域などとまちづくりに関する意見を伺う場を設け、時間をかけて跡地活用について検討する予定である。教育委員会から市長部局には、窓口となる担当部署を設置してほしいと伝えており、動き出したら地域の皆さまを巻き込みながら連携して進める。統合後の運営場所は明確に決定していないため、その決定後に議論を進めることとなる。

【C案を検討するにあたっての前提条件について】

<問>説明させていただいたC案を検討するにあたっての前提条件についてのご意見やご質問などがあれば、お聞かせいただければと思います。

- ・義務教育学校とすることはできないのか。けやき坂小学校を含めた小中一貫校となった場合、校長はどこに何人配置されることになるのか。

《教育委員会》

⇒義務教育学校とすることは可能だが、校長は、清和台の新しい小学校、けやき坂小学校、清和台中学校をあわせて1名の配置となるため、けやき坂小学校が別の敷地にある以上は現実的ではないと考える。小中一貫校であれば、敷地や組織は別々に独立しており、それぞれの学校に校長がいて、連携した一貫教育ができるという考え方である。校長は、清和台の新しい小学校に1名、けやき坂小学校に1名、清和台中学校に1名、川西養護学校に1名配置されることになる。

- ・以前視察した義務教育学校の場合は、小学校6年、中学校3年という区切りではなく、4年・3年・2年など教育課程を区切ることも可能だったと思う。小中一貫校の場合は、そのような分け方ができなくなるということか。

《教育委員会》

⇒ご認識のとおりである。小中一貫校はひとつの学校ではなく、それぞれの小学校や中学校が独立しているという考え方である。学年を分割することは可能だが、実際は難しい面がある。例えば、けやき坂小の場所が分離しているにもかかわらず、けやき坂小の6年生になったら清和台の新しい学校に来ることや、中学校の校長が6年生を含めて学校運営をしていくことは、現実的に難しいことが多いと考えられる。

- ・けやき坂地区がどのような学校のあり方を望むかという点については、今後、けやき坂地区との話し合いで聞き取りしていくのか。けやき坂地区からは、バスがない限り小学生が清和台中学校まで登校するのは難しいと思う。

《教育委員会》

⇒清和台中学校の敷地に集約して統合する場合、開校は令和14年度までかかる見込みである。それまでの間にけやき坂小学校とも話をしていく予定である。今年度初めて1年生で単学級が出たが、6年生は4学級あり、現状を把握していない保護者も多いと思われる。推計では、令和14年度には、けやき坂小学校も多くの学年で単学級となっている。それを念頭に置き、小中一貫校なのか義務教育学校なのか検討していくことになる。昨年度に引き続き、学校運営協議会へ説明に赴く予定である。

【C案で検討を進める際の今後の協議事項について】

<問>説明させていただいたC案で検討を進める際の今後の協議事項についてのご意見やご質問などがあれば、お聞かせいただければと思います。

- ・令和11年度に小学校だけ統合する場合、どちらかの校舎が空く。その空いた小学校で川西養護学校の子どもたちが生活すれば、既にセキュリティも整っており、仮設校舎を建てるよりコストも抑えられるのではないかと。

《教育委員会》

⇒非常に合理的な案だと思う。川西養護学校の児童生徒が安全に過ごすことができ、できるだけコストを抑えることができる方法を選択していく。仮設校舎はいつか壊すものなので、せっかくお金をかけるなら、これから子どもたちが学ぶ新たな学校に費やす方が価値がある。ご意見の案で考えた時には、川西養護学校の子どもたちが来た際にどちらの校舎が使いやすいかということも判断材料のひとつになる。どちらを選択するのかについても建築部門の職員も交えて検討していく。

- ・現在の児童数では、どちらの小学校に統合しても収容は可能なのか。

《教育委員会》

⇒どちらでも収容可能である。仮設校舎を建てるだけでも5億円ほどかかる。仮設を建てるとうグラウンドも傷み、音も響いて川西養護学校の児童生徒は生活しづらくなる。先に小学校が統合する場合は、空いた学校に川西養護学校を移動させる方が合理的。ただ、そうなった場合、スクールバスを出さないと学校から遠くなる子が出てくる。これは事務局内での考えなので、今後、保護者の意見を聞いていこうと思っている。

- ・通学方法はとてもネックとなる。そこをきっちり決めてもらい、子どもたちが通学できる保障をした上で、学校設備に投資しなくても良いように、できるだけ現状のものを利用してほしい。一度に一貫校にする場合は一度すべて壊す必要がある。保護者もいずれ統合していくことはわかっていると思うので、通学方法だけを明らかにしていけば、理解してくれると思う。

《教育委員会》

⇒通学支援については、今後、市長部局と詰めていきたいと考えている。令和14年度にはバスが必要となる。先に小学校2校が統合することになったとしても、それは時期を前倒しするだけなので、教育委員会としては通学支援を実施したいという強い意志をもっている。市長部局も理解してくれているので、おそらくそのような形で進めていけると考えている。いきなり一緒になるよりも、まず子ども同士が一緒になって知り合う行程も大事かと思う。

- ・C案で決まったことは、懇話会メンバー以外の保護者にはどのように伝えていくのか。

《教育委員会》

⇒7月の地域説明会で地域には伝える。また、懇話会で出た意見等を踏まえ、令和8年度10月頃までかけて個人懇談後や意見交換会などで、先に小学校が統合することについて意見を聞いていく。先に統合した方が良いかを、スクールバスを出す前提で意見を聞く。その後、12月頃に実施する第4回地域説明会では教育委員会の提案を決定した状態で地域にお伝えしたい。来年度以降の予算を要求する時期までには決めていかなければ、その後もどんどん遅れが発生することになる。

- ・児童への授業の中で、どのようにしたら仲良くなれるか考えるものがあったと思う。それを取り入れて交流するのは来年度からになるのか。

《教育委員会》

⇒今年度中からできることを取り組んでいく。ちょうど昨年度の授業で学習した6年生が、この春、中学校に上がったので中学校との連携も取りやすいと考えている。今年度から交流を進めていく予定で、清和台地区の校長先生たちも集まって協議している。連休明けには、清和台小学校、清和台南小学校の教員が清和台小学校に集まり、交流する方法について協議する予定である。

- ・工事期間3年間ということだが、中学生はどうなるのか。1学年だけ小学校に移動して、などということはあり得るのか。古い校舎はある程度そのまま活かしていくのか潰すのか。

《教育委員会》

⇒中学生はその場にながら工事をする予定で、移動は想定していない。南校舎は長寿命化するかなどの対応となり、内装を新たに作る予定である。北校舎は長寿命化を実施しているため、あまり手を加えない。川西養護学校と清和台中学校の場所を入れ替えるなど大がかりなことは想定しておらず、使用できる部分は使用していく。川西養護学校の子どもたちが学習する場所と交流できる場所を分けたりするなど、工夫をして考えていきたい。三田市のひまわり特別支援学校のように小学校と一緒にしているところもあるので、提案はまた改めて行うが、懇話会メンバーでまた視察に行ったらイメージをもつのも良いと思っている。

- ・中学生がいながらということだが、大きな解体などは、夏休みなど生徒がいない時期に行うのか。

《教育委員会》

⇒解体と新築するには夏休みだけでは難しいので、仕切りをして場所を調整しながら工事を行う。南校舎は内装を替えるような工事であれば夏休みメインとなり、生徒がいない時期にやることになると思う。具体的な工事内容が決まっていないので明言はできないが、できることは配慮する。作るからには良い学校施設を作りたい。子どもたちの学習の仕方は変わってきており、みんなが一斉に前を向いて授業を聞くスタイルだけでなく、一人ひとつのタブレットを使って自分たちで情報を集めるようなスタイルもある。将来的に子どもたちの学びに合わせた環境づくりをしていきたい。

- ・清和台小と清和台南小を先に統合する場合は令和何年度になるのか。

《教育委員会》

⇒しっかり準備をしてからということになると令和11年度から。

- ・令和9年度の新しい学校のコンセプト作成は、11年度の統合を視野に入れてということになるのか。

《教育委員会》

⇒ご認識のとおりである。令和8年度12月頃には、先に小学校同士の統合をするかどうかも含めて方針を決定したいと考えている。令和9年度のコンセプトを考える際には、令和14年度に開校予定の新しい学校のコンセプトを検討していくが、11年度の統合も視野に入れながら進めていく。

- ・先に小学校のコンセプトが決まってそのまま令和14年度にもっていけることを前提にしているのか。

《教育委員会》

⇒コンセプトの作成は令和14年度の新しい学校を想定しているが、先に小学校同士で統合する場合はPTAや保護者活動、学童など細々したことを決める必要も出てくるため、同時並行で検討する必要がある。

- ・設計事務所は、入札か指定か。もう会社は絞ってきているのか。

《教育委員会》

⇒基本的に入札となる。ただ、入札の方法も単純に価格比較だけの場合と、提案を受けながら総合評価で入札する方法もある。工事費が高騰しており、当初予定していた金額よりさらに上がることが想定される。

- ・設計会社が決まったら、設計会社の考えを懇話会にも共有してもらい、それを基に検討を深めていけたらいいと思う。

《教育委員会》

⇒参考にさせていただく。

- ・第3回の地域説明会は何をするのか。

《教育委員会》

⇒第3回でC案になることを住民の皆さまに伝え、第3回のご意見等を踏まえて第4回では最終決定を伝える予定である。

【今後の進め方について】

《教育委員会》

⇒次回の日程を調整中。C案に決定したので、できれば川西養護学校で懇話会をしたいと思っている。

また、第3回の地域説明会は7月4日・5日で実施予定で調整中。